自治体や社協と連携 まします! 主民の新たな

とやま生協が東部エリアの活動拠点として新設した東部センターは、組合 員、地域住民の食やくらしのさまざまな活動を支援できる設備を備え、ま た、太陽光発電のソーラーパネルも設置し、環境への配慮も行っている。 災害時は電気自動車を蓄電池として利用すれば事業所に電力を供給でき、 地域住民の一時避難所にもなる。同センターの設備および自治体や社会福 祉協議会との連携についても取材した。

生したのが、

とやま生

協

東部セ 新たに誕 部市)

と富山県生協の東部センタ

滑が

川か

市

を統合して、

まで各生協の活動拠点であ

O・OPとやまの新川センター

(黒

協

が誕生した。合併を機に、

て、

2022年4月、

とやま生

県生協とCO・OPとやま)

が合併

富山

県にあ

る二つの生協

富

とやま生協



(2023年3月末)

博則さんは

「晴天時は事務

使 川か

部地区本部

地区本部長の

市場

ることも可能だ。

用する電力、

宅配

の保冷剤

0) 所で 冷

凍

調理室の

Ĭ H

コンロ

や電気オ

とやま生協DATA 組合員数:13万6,412人

職員数:489人

(正規職員285人、定時職員204人)

センター数:5センター 店舗数:1店舗 福祉施設:5施設

ブン

などを、

太陽光発電で賄えま

22年度総事業高:173億8,636万円

\$\$\$ 太陽光発 代害に強 (1 電 を 宅 配 中 セ心 ン に

9 L

する。 本部長)

以下、

発言すべて市

た

で、

災害時に停電

してもり 電力を賄える

C

R

用 0 で

よる読み取り発注ができる

業継続が可能です」

と説 川地

眀

崩

する3日

分の 車1

電

気自

動

台で、

事務

所

W 根 で 0) に ソー は 施設運営を目 部 (魚津市) 1枚 センターは、 ラー あ パ たり最大出 だ。 ネルを480 指 して ĺ 力31 ぉ カ ŋ 1 枚設 ボ 屋

> 市と包括連携協定を結び 〈害対策や子育て支援実施

> > 項目につ

いて協定を結びました

この協定により東部センター

は

市で自然災害発生時、

地

域住

市長にあ 前 市 7 結んで、 「市長から、 Ш 東 身 7の2生 きましょう』 地 部センターが完成した際に、 区 さまざまな分野で連携 いさつに行ったという。 本部長は、 これをきっかけに、 協 『地域包括連携協定を の理事長と共に魚 とご提案いただ とやま生協 津 L

保存

水やマジッ

クライス

かか

水を入れるだけで食べることが

などの食糧が備蓄され

分の

毛布や仕切り用

テン Ļ (炊

10

年

うことになっ

た。

東部センター

0)

0 津

時避難所としての役割を担

倉庫には、

市から委託され

た 30

いる。

さらに、

23年度は子育て支援とし

魚津

市のこども課と連携して



車を

蓄電池として利用することで

ンド 気自 して

が 動

あり、

災害時に電

気自

電 置

車

E V

1

台と充電

いる。

さらに、

駐

車場に、

セ

ター

0)

事務所に電力を供給す

東部地区本部 地区本部長 市川博則さん

0) 0)

購

入費用や配送などの運営費

内

の赤ちゃんがいるご家庭にお

つを配る活動を実施しています。

魚津市おむつ宅配便は、

おむ

害時 0 協定や子育て支援など10

とやま生協 東部センター



電気自動車(EV)と駐車場に設置された充電器。



IHコンロや電気オーブンが設置された調理室。



センター内にあるコープハウス。利用時間内に組合員が商品を 受け取ることができる。



魚津市から長期保存水と食糧の備蓄を委託されている。



L1m-net端末機器と「御用聞きカード」「元気だよカード」。



0

U は

社 0) ح C 協 組 やま生協 T لح 合員 連 な抱 ょ は る見守 元えてお 約 13 な 万6、 が ŋ W 5 行 活 五 4 動

テッ と共に、

0) Þ

きらきらス

離乳食と、

P き

ら

うきら

お

む

U

る。 生

をとやま生協が負担してい ご家庭に訪問する際は、

b

協

0)

仲

間

づくりにもつなげ

商 テ

묘

ブ

きらきらキ

ッ

ズ

0)

記を掲載し

しているチラシをお渡

しするなど、子育て支援をしなが

中 舖 物 **2**万 店 ン 山間地を回っ 0) 困 る。 舗 夕 うちち 難 3 者に 2 Ó 5 0) 台 Ŧî. うち つの 1台が配達 対応するため、 0 0 移 人 東部セン 動 福 0) 店舗を運 祉 組 施設、 エ 合員と買 IJ 夕 ĺ 移 ア 営 0 動 つ 0

7

セ

な環 守 議 ŋ 会 率が高まっています。 境 活 。 以 県は東に行くほど住民の の中 動 が、 下 23 年 社 立た 協 9 山紫 と連 月 町も 社会福 より この 携 にした見 開 よう 高齢 始 祉 協

> 者の 技術 まし 買 い物支援の仕組みです」 見守りと宅配による高齢者 器を利用 しながら、 高

宅に 器には 民生 声 末機 K n 毎 き 0) net て、 ご本人や家族の了解を得て (株) 読 1 X 力 とやま生協では、 を 日 ĸ 器を自宅に設置する。 e V 聞 ッ 見守りが必要と判断 委員が高齢者の自宅を巡回 日新システムズと共に、 み 取 セ ながら高齢 F 「元気だよカー ル ŋ た利用者が、 ワンネット)」 機器 機 ジ 昼 0) 2枚が が機器から 夜に社 0) 者の . 置 上 本機器メ くことで、 非 付 F 安否確認 協 「元気だ 11 とい 接触 から 流 する 7 この [L1m-御用 れ 11 社 カ ð 0) 力 る 協 自 そ が 1 ょ 聞 機 端 音

た。 れ は I C T (情報 通 信

さらなる地 Ŕ 35 八害時 流積場所でも 高齢化とい \dot{o} とやま生協 人の高齢者が利用 b さまざまな役割を担 生 取 0) 協 ŋ 組 0) 記送 域 時 貢献を目 避難所や救援物 東部 つ あ で た地域 ŋ, 拠点だけ $\epsilon \sqrt{}$ センタ る。 してい さらに子 指 の課題 ます で な n は なく、 が か 解 育 資 従

もう1枚の 『御用 聞 きカ K

に行く。 できる。 【生委員が利用者の自宅まで確 安否確認ができない 時 は

利用者が簡単な操作で意志を伝えることができるL1mボタン(ICT機器)と支援者が利用者の状況を確認する L1mシステム(管理画面)から構成される新たなコミュニケーションを実現する仕組み(L1m-netHPより)。

在

宅配では25人、

移

動

員に商品をお届け

します。 店舗

現

齢者 ま生 機器

0 協 0)

方に必要な商品を

 \Box

頭

)絡され、

います。 に置

そこで高

指定 に連

0

場

所

とや

文してもらい、

宅配や移動

舖